

10時30分集合
千葉運転区

3.2

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

デッチ上げ事件 6.12 資料4回公判に結集しよう

いよいよ革マルのスパイ(デッチ上げの張本人)嶋田誠が
検察側証人として出廷 許すな
デッチ上げ「6.12事件」が四回公判として、いよいよ3月2日、13時より、デッチ上げの張本人・東洋大学出身の国鉄潜入党員・コロビ屋・嶋田誠が検察側の証人として出廷します。完全に権力の手先となり下った嶋田誠のデッチ上げ証言をあげばき粉碎し、完全勝利・無罪獲得のために総力で結集しよう。

デッチ上げ性を自己暴露した 斉藤吉司のオ3回公判証言
前回、オ三回公判(オ)で検察側証人として出廷して、ゆが弁護団の鋭い反対尋問によって、つぎつぎとこの「デッチ上げ」の証言をあげばき出されてしまった斉藤吉司の証言については、既に『日刊』で明らかにしてきましたが、もう一度整理すると、

①、自分の所属している三信ビルの住所すら「わかりません」と赤面するおまじつき。
②、今日、いまだに「デッチ上げ」千葉地本の組合員数は千四百名」とうそをつき、すぐ後追及されて「組合費を納入しているのは、百十九名」と弁解。
③、規約規則を無視して「津田沼支部」を「デッチ上げ」自ら「デッチ上げ」津田沼支部長」を名のっていること。彼らの「津田沼支部」なるものは、組合事務所も掲示板も、何も電話も全く「無い」このユウレイ組合であること。
④、最も許せないことは当時の片岡支部長以下多数の支部役員を白昼公然と武装襲撃し、頭が骨々折の重傷、全員に重軽傷を加えた。断じて許せぬ「79年4月17日津田沼武装襲撃」事件について追及されて「知らなかった」とインハイしようとした。さすがに裁判長から「津田沼の運転士でありながら知らないとは考えられない」「本当に知らないのか」と何度も尋問され行きつまった斉藤吉司は、しびれ「後になって聞いたなど」と聞き直ったのである。こんな事がどうして許せるか、

⑤、肝心な「6.12事件」なるものの核心点である「暴行傷害」なる行為の部分で、決定的に「デッチ上げ」性を「バツロ」即ち、「左ほほを殴られた」「デッチ上げのタレコミ証言、検事の告訴状」。⑥、病院では「右ほほがいたむ」と言えず「診断をうけ(カルテに記録)」。⑦、公判送付検事から「病院でこの部分か痛むと訴えたのか?」その部分を指し示して「下さい」と言われて、斉藤吉司が押えた箇所は「右ほほ」という「デッチ上げ」。

もはや、誰の目にもはつきりしている。

こうした中で、3月2日、嶋田誠が引き出されくる。

嶋田誠という卑劣分子は、東洋大学在学中から革マル卑劣分子として活動していたが、「高卒」と称して津田沼電車区検修係として送り込まれた。潜入してからしばらくのうちは革マル分子である事をかえすため、三里塚勤労員等にも一応参加し(スパイ)、青年部の役員等にも立候補して、形をとりつくる。言動の中から、しだいに職場の仲間から、その正体を見破られてしまったのである。

正体をあげられてしまった革マル分子嶋田は、ひらき直って「スト破り」を率先して行ったり、協会派の仮面をつけて国労分会介入を企て、国労分会青年部選挙に介入し、国労分会および津田沼支部から徹底的に弾劾されたり、怒始、津田沼職場の闘争と団結力を破壊するためにのみ目的意識的に策動してきた丸つきの「マニスト分子」である。

嶋田の数々の犯罪行為の中でも、断じて許さない決定的犯罪行為が、

オ二に、「79年4月17日津田沼武装襲撃」の計画・内部からの手引きの首謀者である」という事であり、それ以降も、「当然のこと」と聞き直して「オ二に、動労千葉破壊のためには、「傷害」をも自作自演でデッチ上げ、権力にタレコミ、弾圧を要請すること」腐敗し切った「コロビ屋」警察労働運動の道へと先頭きって、組合員をひきつり込んでいく事である。

現在、動労本部「反動分子」は、①右翼労戦「統一推進」の武装親衛隊。②35体制合理化の先兵。③警察労働運動、三里塚敵対、動労千葉破壊。④新生生運動「労働運動」で、産報運動の先兵をかき出している。3月2日煮えたる怒りで、オ四回公判を向けよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!